

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problems Mailbox.**

公開実用 昭和64- 37407

6

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U)

昭64-37407

⑬ Int.Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 昭和64年(1989)3月7日

A 41 C 1/02

7150-3B

審査請求 未請求 (全 頁)

⑮ 考案の名称 ガードル

⑯ 実 願 昭62-132220

⑰ 出 願 昭62(1987)9月1日

⑱ 考 案 者 田 代 隆 神奈川県横浜市港北区鳥山町466 マルタ産業株式会社内

⑲ 出 願 人 マルタ産業株式会社 神奈川県横浜市港北区鳥山町466

⑳ 代 理 人 弁理士 波多野 久 外1名

A

5, 6, 12 20



明 細 書

1. 考案の名称

ガードル

2. 実用新案登録請求の範囲

少なくとも臀部を被覆するガードル本体の内面に、そのガードル本体の前部上側から後部下側に亘る帯状の臀部下半支持用のパワーネットをバイアス状に設けたガードルにおいて、前記パワーネットは、少なくとも後方下辺部分が前記ガードル本体に対して非縫着のフリー部分とされ、かつそのフリー部分としての下辺部分が上辺部分よりも曲率半径の小さい円弧となる如く両端部側を振って前記ガードル本体に縫着してなることを特徴とするガードル。

3. 考案の詳細な説明

(考案の目的)

(産業上の利用分野)



本考案は下半身補正用のガードルに係り、特にヒップアップ用補正効果の向上を図ったガードルに関する。

(従来 of 技術)

下半身補正用のガードルでは、ヒップアップ用補正効果が特に重要視され、従来、その点についての種々の研究が行なわれている。

従来のこの種のガードルとしては、臀部被覆用のガードル本体の前部上側から後部下側に亘るバイアス状の帯状布からなるパワーネットを設け、装着時に臀部に引上げ力を作用させるようにすることが考えられている。

しかし、従来のものでは、パワーネット全体がガードル本体に縫着されており、パワーネットが平坦な状態でガードル本体に付随した構造となっている。そのため、パワーネットによる引上げ力が臀部全体に作用することとなっており、臀下半への持上げ力が独自の強化されなかった。

(考案が解決しようとする問題点)

従来のガードルでは、パワーネット全体がガ



ードル本体に縫着されているため、装着時における臀部下半への持上げ力も共用的であり、ヒップアップ用補正効果を強化することが難しかった。

本考案はこのような事情に鑑みてなされたもので、装着時にパワーネットを臀部の下半部にフィットする三次元的な独自形状となるようにして、ヒップアップ用の補正効果を向上することができるガードルを提供することを目的とする。

(考案の構成)

(問題点を解決するための手段)

本考案は、少なくとも臀部を被覆するガードル本体の内面に、そのガードル本体の前部上側から後部下側に亘る帯状の臀部下半支持用のパワーネットをバイアス状に設けたガードルにおいて、前記パワーネットは、少なくとも後方下辺部分が前記ガードル本体に対して非縫着のフリー部分とされ、かつそのフリー部分としての下辺部分が上辺部分よりも曲率半径の小さい円弧となる如く両端部側を振って前記ガードル本体に縫着してなることを特徴とする。



(作用)

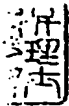
パワーネットのフリー部分としての下辺部は曲率半径の小さい湾曲形状となって臀部下半部分を強く締付けるとともに、上辺部はこれよりも外側に広がるため、臀部に対しては上方への持上げ力がより強化され、ヒップアップ用の補正機能が大きくなる。

(実施例)

以下、本考案の一実施例を図面を参照して説明する。

第1図はこの実施例のガードルの前面上方斜視形状を示し、第2図は上記ガードル背面上方斜視形状を要部のみ実線で示している。

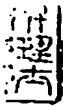
第1図および第2図に示すように、この実施例のガードルではスタンダードタイプのガードル本体1に臀部下半支持用の左右一對のパワーネット2を対称的に設けている。各パワーネット2は、ガードル本体1の内面に沿い、それぞれ前部1a上側から後部1b下側に亘ってバイアス状に設けられた帯状布3を有する。この帯状布3は、上逆



り刀状の湾曲形状を有し、かつガードル本体 1 の前部 1 a 側に縫着される一端部から、ガードル本体 1 の後部 1 b 側に縫着される他端部側に向って次第に幅広となっている。この带状布 3 の下辺部外面には、その下辺を一致させて、带状布 3 よりも小幅な補強布 4 を縫着している。

パワーネット 2 の一端 2 a はガードル本体 1 の前部 1 a 上端の中央部を超えた延在位置に縫着し、他端 2 b はガードル本体 1 の後部 1 b 下側に縫着している。また、パワーネット 2 の上辺部分 2 c は長手方向全体に亘ってガードル本体 1 に縫着している。そして、パワーネット 2 の下辺部分 2 d のうち一端 2 a 側の一部は、前部 1 a に縫着した腹部補正布 5 と重合する部分のみガードル本体 1 に縫着し、その他の部分は非縫着としてガードル本体 1 に対してフリー部分 6 としている。

ところで前記のパワーネット 2 の縫着部分の縫着に際しては、下辺部分 2 d のフリー部分 6 が上辺部分 2 c よりも曲率半径の小さい円弧となる如く、両端 2 a、2 b を振った状態としている。こ



れにより、装着状態においては、パワーネット 2 の下辺部分 2 d が上辺部分 2 c よりもガードル本体 1 の内方に突出して三次元的にガードル本体 1 から独立して湾曲した形状を呈する。

第 3 図はこのような装着状態の側断面形状を示したものである。

第 3 図に示すように、パワーネット 2 のフリー部分 6 としての下辺部 2 d は曲率半径の小さい湾曲形状となって臀部下半部分を強く締付けるとともに、上辺部 2 c はこれよりも外側に広がるため、臀部に対しては上方への持上げ力がより強化され、ヒップアップ用の補正機能が大きくなる。

なお、前記実施例では本考案のガードルをスタンダードタイプのものに適用したが、ショートタイプまたはロングタイプのものにも適用できることは勿論である。

また、下部品のみに限らず、上下一体物に適用できることも勿論である。

(考案の効果)

以上のように、本考案によれば、臀部支持用

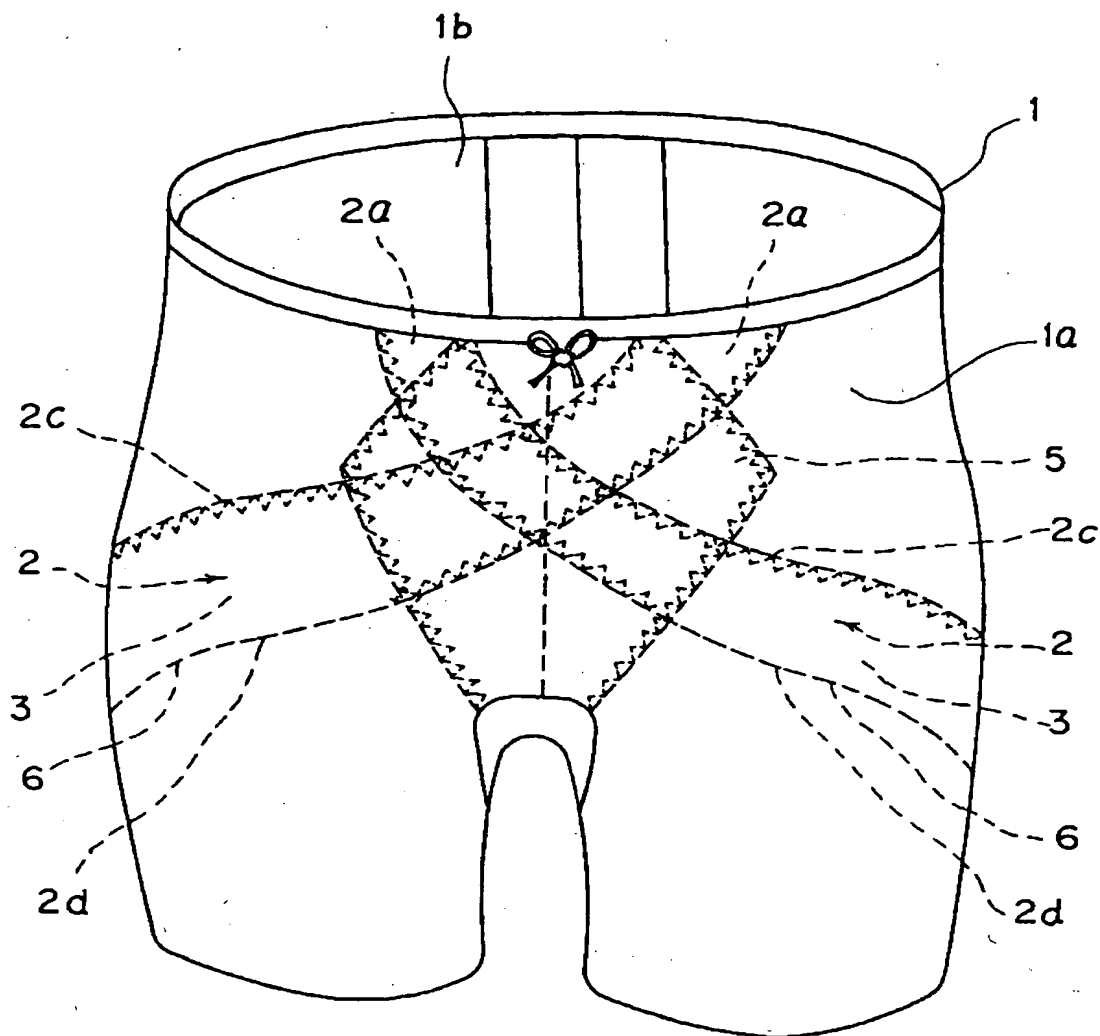
パワーネットの上下辺部に曲率の差を設け、パワーネットがガードル本体から独立した傾き形状を得るようにして、より強い持上げ力を得るようにしたことにより、ヒップアップ効果がより向上するという作用効果が奏される。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本考案に係るガードルの一実施例を示す前方側斜視図、第2図は後方側斜視図、第3図は側断面図である。

1…ガードル本体、1a…前部、1…後部、2…パワーネット、2a、2b…端部、2c…上辺部分、2d…下辺部分、6…フリー部分。

出願人代理人 波 多 野 久

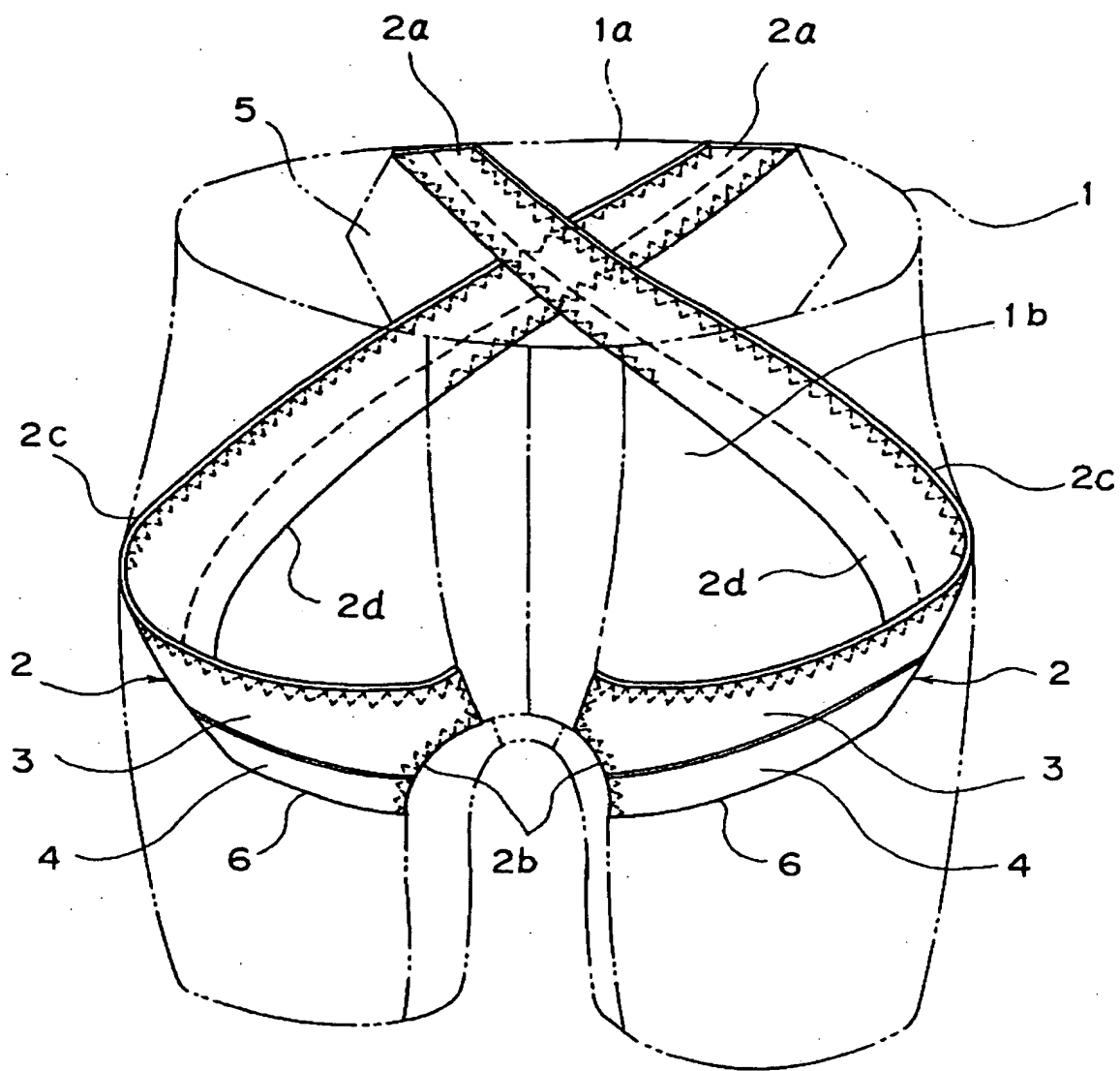


第 1 図

46

実用新案登録出願人 マルタ産業株式会社

上記代理人 波多野 久
実昭 64-37407

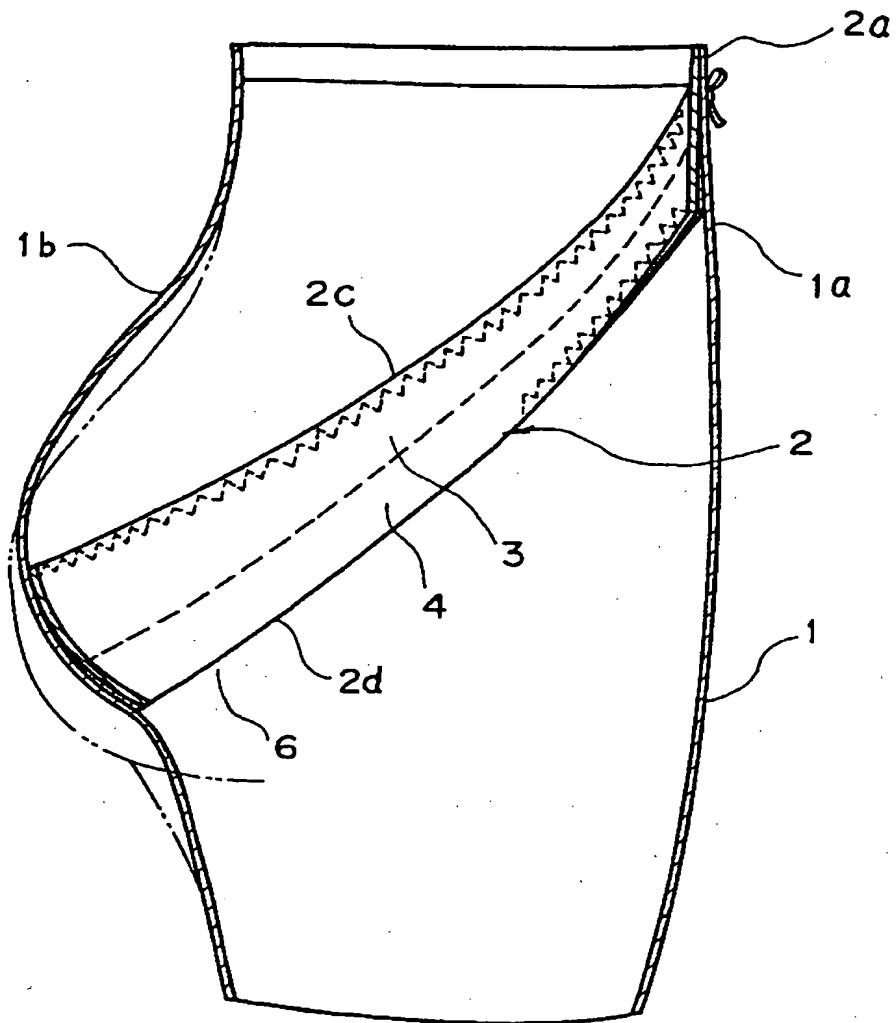


第 2 図

47

実開 61-37407

実用新案登録出願人 マルチ産業株式会社
上 記 代 理 人 波 多 野 久



第 3 図

48

実用新案登録出願人 マルヤ産業株式会社
上 記 代 理 人 波 多 野 久